

白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金概要

実施主体：大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会

実施期間：6月下旬～10月上旬

収受金額：1,000円（1人1回につき）

対象者：白雲岳避難小屋周辺登山道を利用する方

収受方法：白雲岳避難小屋にて管理人が収受口座振替

協力金の使途：登山道の補修
補修技術の向上
情報発信等

白雲岳 環境省直轄整備
避難小屋情報：2021年オープン（7～9月有人管理）
宿泊協力金 2,000円/人（小屋泊）
500円/人（テント泊）



協力金や登山道補修に関わる情報

白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金
（上川町ホームページ）
<URL>



協力金取組方針
<URL>



大雪山全体の情報

大雪山ビジョン
<URL>



大雪山国立公園連絡協議会
<URL>



ヒグマ情報センター
<URL>



発行

大雪山国立公園連絡協議会
（事務局：大雪山国立公園管理事務所）
01658-2-2574

「大雪山国立公園における協力金取組方針」

大雪山国立公園の 新たな保全の 仕組みを目指して

2021年の夏、大雪山国立公園の白雲岳で、新たな協力金の取組を開始しました。

対策が追いつかない山岳地域の荒廃に対して、皆で守るモデル的な仕組みを目指します。

大雪山の貴重な自然環境を将来世代につなげていくため、あなたにもぜひ知ってほしい取組です。

大雪山国立公園連絡協議会

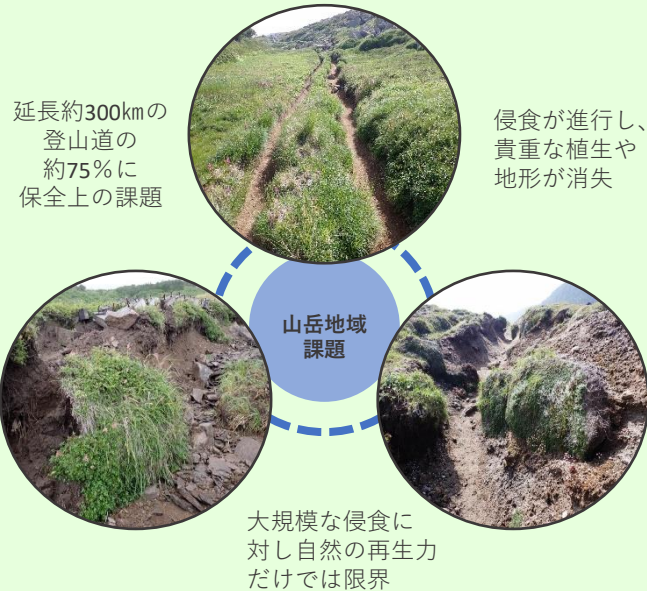
2022年5月

協力金の取組は何のために？

荒廃している山岳地域の課題解決のためです。

...特に登山道とその周りの荒廃を止めるための活動を行います。

課題解決のための新たな仕組みへ



登山道管理者だけでは解決が困難で、行政予算だけでは対応が追いつきません。

課題解決のために

協力金の取組は、登山道を利用する利用者自身が保全に参加(※)する重要な仕組みになります。

※取組の趣旨に賛同する利用者が自主的に支払う考え方に立ち、強制ではありません。

何をを目指すの？

登山道の管理者と利用者が協働し、山岳地域を保全する新たなモデルを目指していきます。

登山道管理者と利用者の協働モデルへ



大雪山モデルの構築に向けて、定着させ、発展させていきます。

今後どのように進めるの？

白雲岳での先行地域を元に、大雪山国立公園全体に展開されるよう、地域連携を進めていきます。

試行的取組から本格的取組へ向けて

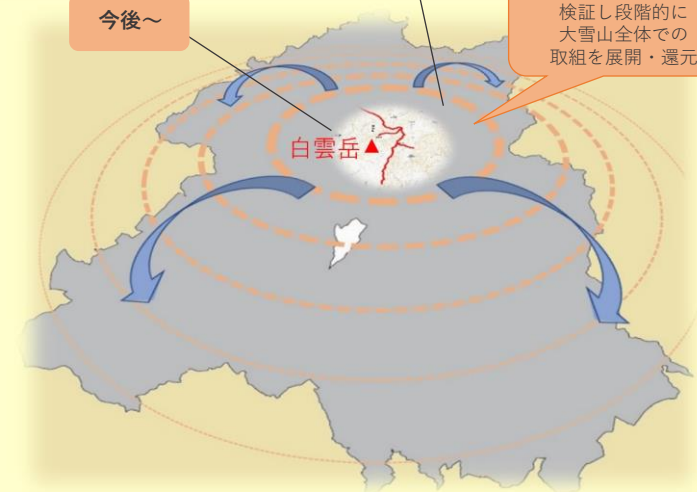


白雲岳避難小屋を拠点に取組を開始

- ・協力金の収受
- ・登山道の補修

今後～

白雲岳での取組結果を検証し段階的に大雪山全体での取組を展開・還元



大雪山国立公園の価値を守り、将来世代に引き継ぎます。